

鳥インフルエンザ対策に関する研究会を開催

近年、高病原性鳥インフルエンザが毎年のように国内で発生しており、関係者が一丸となって発生予防対策に取り組んでいます。農場周辺のため池での渡り鳥の飛来を防止する防鳥対策は重要な対策の一つであり、落水や糸の設置等が行われていますが、農業用水の確保や野鳥の保護等と両立していくため試行錯誤している現状があります。

そこで、より効果的な対策検討の一助とするため、野鳥の生態や家畜衛生の専門家を交えた研究会を10月4日に開催[※]したところ、全国より来場23名、オンライン約70回線の参加がありました。

当日は、養鶏場近隣のため池2か所を視察し、家畜保健衛生所職員から工夫を重ねつつ防鳥対策を行っているとの説明を受けた後、現時点で考える効果的な対策について意見交換をしました。

当センターでは本研究会で得た情報を参考にして具体的な防鳥対策を模索するとともに、今後も、より効果的な対策を専門家とともに検討していきます。

※ 畜産草地試験研究推進会議鳥獣害分科会、近畿中国四国農業試験研究推進会議畜産草地推進部会(いずれも国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構及び当センターとの共催)



ため池での説明



当センターからの話題提供